

階層分析法（AHP：Analytic Hierarchy Process）を用いた複数大学参加のキャンプ実習における満足度の定量的解析

○大橋信行 [東京経営短期大学] 佐久間康 [東京経営短期大学]

田代浩二 [NPO法人体験学習研究会] 内田英二 [大正大学]

キーワード： キャンプ 評価法 AHP

【目的】キャンプなどの野外活動に参加した学生の満足度を測る手法として質問紙法が広く用いられているが、その際、解析方法として階層分析法（AHP: Analytic Hierarchy Process）を活用することにより簡便でかつ要因の定量化が可能となる。そこで今回、キャンプ実習に参加した学生を対象に、参加目的や満足度についてAHPを用いた解析をおこない検討した。【対象と方法】対象は、大学3校および短期大学1校で行った合同キャンプに参加した学生25名（大学：1年生10名、2年生2名、3年生1名、4年生1名、短期大学：2年生11名）であった。質問紙は、キャンプ開始前と終了後にそれぞれ回答させた。【結果および考察】キャンプに参加するにあたり期待することを「コミュニケーション能力向上」、「楽しみ」、「自然体験」、「仲間意識」、「授業単位の取得」、「自分の活躍」の中から一対比較で選択させた結果、楽しみ32.4%、自然体験23.1%、仲間意識18.7%、コミュニケーション能力向上15.2%、自分の活躍5.6%、授業単位の取得は4.9%であった。したがって、今回参加した学生の目的は、キャンプ自体の「楽しみ」を最も重視していたことがわかった。

兵庫県内の福祉施設におけるレクリエーション担当職員の現状と課題

田島栄文 [甲子園短期大学]

社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会 社会福祉研修所の主催事業として、「レクリエーションリーダー養成研修」が毎年8月の平日に2日間実施されていた。筆者が所属するNPO法人 兵庫県レクリエーション協会を通じて講師派遣依頼があり、平成17年から福祉レクリエーション・ワーカー資格を取得している講師陣でこの事業に関わっていた。

この研修には、県内各地域の福祉施設から毎年約90名の職員の参加があり、主催者が受講生に対し、事前アンケートと事後アンケートを取っている。事前アンケートでは、福祉現場におけるレクリエーション援助の悩みと研修への期待等が記入される。また、事後アンケートでは、研修に対する評価と今後の職場と自己の課題等が示される。書かれたデータを整理・分析し、活用したいと研修所の担当者に相談し、承諾を得た。

本研究は、過去5年間にわたる福祉現場のレクリエーション担当職員のアンケートを分析することで、福祉現場の問題点を捉え、今後に向けた課題を明確にする。そして、介護福祉士養成教育の中で必修ではなくなった「レクリエーション活動援助法」の必要性と、その教育の質の向上に活かせるよう考察する。